

個人懇談がはじまっています。



昨日から個人懇談がはじまっています。今週 1 週間、午後の時間帯を使って各学年、各クラスとも 2 学期を振り返って子どもたちの学校や家庭での様子を担任の先生と顔を合わせてじっくりとお話ししていただくのが目的です。と言うものの、限られた時間ですので、お話しされた内容を絞ってご来校いただければ幸いです。

いつも言いますが、子どもは『多面的な』表情を見せます。家庭で家族にしか見せない表情、学校の授業の中での表情、同じ学校でも授業ではなく休み時間などで友達に見せる表情等々…実に様々です。ともすれば私たち大人は、子どものある一側面だけを見てそれをその子のすべてだと「思い込んで」しまうこともあります。

しかし、同じ事柄でも、先ほど書いたような「違った場面」での子どもの表情を知ることで、私たちもより『多面的に』子どもたちを理解することができるのだと思います。例えば、学校(クラス)で出された「宿題」ひとつをとっても、その宿題に込められた「先生の思い」と、子どもたちの「受け取り方、感じ方」の違いを知ることができるかと思えます。これは一例ですが、こういったお話をする時間を通じて、ご家庭と学校がより深く、より子どもを理解することができ、これまで以上により丁寧に子どもたちを育てていくことが可能になると思っています。

大変お忙しい時期に、時間調整までお願いしてつくっていただいた貴重な時間です。短い時間ではありますが、どうか「お話しができて良かった！」とご家庭、担任がともに心から思える時間にしていただければ幸いです。

また、ご家庭とのお話はいつでもお受けしますので、今回の個人懇談でお話しきれなかったことなど、遠慮なく担任までご連絡ください。

個人懇談が終われば、1 ヶ月ほどすると 1 年で最も長い「2 学期」が終わり、終業式を迎えます。子どもたちが、3 学期、1 年間のまとめの時期を全力で、充実した日々を送れるよう望んでいます。

☆☆☆ 多目的教室で 1 年生、3 年生、5 年生、PC クラブの「作品展」を開催、展示しています！

今年も、個人懇談の期間にあわせて多目的教室で、1 年生、3 年生、5 年生の「作品展」を開催しています。毎年、そうなのですが、それぞれの学年の工夫を凝らした、また個性溢れる作品を展示しています。1 年生は、思わず手を伸ばして「食べて」しまいたくなるような様々な「パフェ」が並んでいます。同時に展示されている絵も、色彩が赤やピンクを主体にした「あたたかさ」がダイレクトに見る者に伝わってくるような絵になっています。3 年生の作品は、架空の深海魚「カプリン」子どもたちが想像力を駆使して、画用紙一杯に描いたものですが、色彩が青を主体とした 1 年生の作品とは対照的な「海」や「水」の透明感が伝わってくるような作品になっています。あわせて、「ランプシェード」の立体作品もあり、薄暗くした展示室の一角をあたたかな光でそっと包み込んでくれています。5 年生は、これら 1 年生、3 年生の作品とは一味異なる、「切り絵」という「影」が主役となる世界を緻密な切り細工によって表現しています。作品完成までに費やした時間と努力は、完成した作品の一つひとつに現れています。あわせて家庭科でのミシンを使った作品も廊下の壁に展示しています。またパソコンクラブの子どもたちが表計算ソフトを使って作った「しおり」も展示しています。どの学年の作品も、例年になく完成度が高く、見ごたえのあるものに仕上がっていますので時間がありませんでしたら是非、ご覧下さい！



☆☆☆ 昨日の児童朝会で 5 年生が素晴らしい「学年発表」をおこなってくれました！！

昨日、朝の児童朝会で 5 年生が「合奏」を学年発表で披露してくれました。これがまた、完成度の高いもので、いったい「いつ？」そんなに練習する時間があつたのかと思うくらいでした。

曲は日本の古き良き時代、日本にまだ「里山」と呼ばれる自然が多く残っていた頃を彷彿とさせる民謡です。指導していただいたのは音楽の足立先生ですが、発表のとき足立先生の指揮と 5 年生の子どもたちの演奏の息がぴったりと合っていて、また、それにリコーダーの演奏もしっかりと音程があつて重なりあつて体育館一杯に心地よく響きました。聴いていると何故か体が踊りだすような不思議な感覚にとらわれました。曲の演奏とあわせて、「祭り」をテーマにした「群読」も披露してくれました。これは、5 年生のもつパワーをダイレクトに伝えてくれました。本校で唯一、単学級であるこの学年のもつ素晴らしいエネルギーを感じることができました。担任の田中先生の指導がしっかりと 5 年生の子どもたち一人ひとりの中に生きづいていました。5 年生のみんな、田中先生、足立先生、素晴らしい発表を有難う！！

★★★ 昨日、久しぶりに「レイ君」が登校しました！ 子どもたちもしっかり声をかけてくれて彼もうれしそうでした。

To be continued (次号に続きます)